

特別展

岐阜県現代陶芸美術館コレクション

ティーカップ メリーゴーラウンド

ヨーロッパ陶磁にみるモダンデザイン100年
MoMCA COLLECTION: TEACUP MERRY-GO-ROUND
100 YEARS OF THE EUROPEAN MODERN CERAMIC DESIGN



PRESS RELEASE

2026.4.18 sat ~ 6.21 sun

三井記念美術館
Mitsui Memorial Museum

2026.2.20

特別展 岐阜県現代陶芸美術館コレクション

ティーカップ・メリーゴーラウンド

ヨーロッパ陶磁にみるモダンデザイン100年

岐阜県現代陶芸美術館のコレクションより、モダンデザインの系譜につながる西洋陶磁器を一堂に公開。19世紀半ばから約100年間に焦点を当て、ドイツのマイセン、フランスのセーヴル、イギリスのミントン、デンマークのロイヤル・コペンハーゲン、フィンランドのアラビアなどのティー・ウェアやコーヒー・ウェアを中心に、室内装飾品などを加えた名品をご紹介します。

展覧会名	特別展 岐阜県現代陶芸美術館コレクション ティーカップ・メリーゴーラウンド ヨーロッパ陶磁にみるモダンデザイン100年 Special Exhibition MoMCA Collection TEACUP MERRY-GO-ROUND 100 Years of the European Modern Ceramic Design
会期	令和8年(2026)4月18日(土)～6月21日(日)
開館時間	10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日(但し4月27日、5月4日は開館)
主催	三井記念美術館
協力	岐阜県現代陶芸美術館
入館料	一般1,500(1,200)円/大学・高校生1,000(800)円/中学生以下無料 ※70歳以上の方は1,200円(要証明)。 ※20名様以上の団体の方は()内割引料金となります。 ※リピーター割引:会期中、半券のご提示で、2回目以降は()内割引料金となります。 ※障害者手帳をご呈示いただいた方、およびその介護者1名は無料です(ミライロIDも可)。
会場	三井記念美術館 / Mitsui Memorial Museum [〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7階] 東京Metro銀座線「三越前」駅A7出口徒歩1分/東京Metro半蔵門線「三越前」駅徒歩3分A7出口徒歩1分/ 東京Metro銀座線・東西線「日本橋」駅B9出口徒歩4分/ メトロリンク日本橋(無料巡回バス)乗降所「三井記念美術館」徒歩1分
読者からの お問い合わせ先	050-5541-8600(ハローダイヤル)
ホームページ	https://www.mitsui-museum.jp
土曜講座	2026年5月16日(土)14:00～15:30 「西洋陶磁のモダンデザイン」 講師:立花昭氏(岐阜県現代陶芸美術館 学芸員) 会場:三井記念美術館 レクチャールーム *事前申し込み要。申し込み方法など詳細については、当館ホームページをご覧ください。

*開催内容を変更する場合がありますので、最新の情報は、当館ホームページまたはハローダイヤルにてご確認ください。
また、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行う場合があります。

報道関係の方からの お問い合わせ先	三井記念美術館広報事務局 担当:大原、松井、富樫 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町S F1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp
----------------------	---

主な展示作品

*: 広報用画像貸出作品

ドイツ

GERMANY

ドイツは、現在洋食器の多くに使われている、純白の硬質磁器をヨーロッパで初めて作った国です。領邦国家に分かれていたため窯業地は点在しているのが特徴です。

本展で紹介する窯は、創業期によって3種類に分けられます。はじめに、18世紀に創業された窯です。王侯貴族の庇護下、硬質磁器を作るために設立されたもので、ヨーロッパ初の磁器窯であるマイセンをはじめ、ニュンフェンブルク、KPMベルリンが含まれます。

つぎに、産業革命を経て19世紀になると、エルンスト・ボーネ&ゾーネ、ローゼンタール、ヘルマン・オーメといった民間の磁器窯も次々に設立されます。

さらに20世紀には、機械と芸術性を融合させ、建築やインテリアなどの分野を统一的にデザインする理念を掲げた、総合造形学校兼研究所であるバウハウスの陶器工房も誕生しました。



【図1】*
マイセン 花飾ティーセット 19世紀後半



【図2】
マイセン/コンラート・ヘンケル(デザイン)
植物文コーヒーセット「クロッカス・パターン」
1896-1910年(1896年デザイン)



【図3】*
KPM ベルリン
植物文カップ&ソーサー
20世紀初頭



【図4】
バウハウス陶器工房/オットー・リンディッヒ(デザイン)
ココアポット
1924年

フランス

FRANCE

フランスは、ヴェルサイユの宮廷文化が花開き、アール・ヌーヴォーなど芸術運動の一大拠点となった国です。本展で紹介する作品は、セーヴルの磁器と、19世紀後半のファイアンス（錫釉色絵陶器）に分けられます。

まずセーヴルは、フランス初の磁器窯であり、国の磁器産業の代表です。ブルボン王朝の支援を受けて王立となり、その後もナポレオン帝政、王政復古、共和制と政治体制が移り変わっても政府公認であり続けていることが大きな特徴です。ティーセットや花瓶に見られるシンプルで優美なフォルム、鮮やかな色彩や繊細な装飾などに、比類のない格調高さが表れています。

つぎに、テオドール・デック、フェリックス・ブラックモン、エミール・ガレらがデザインした19世紀後半のファイアンスです。3名とも日本美術に傾倒したことで知られますが、とりわけ北斎漫画などからインスピレーションを得たブラックモンの「セルヴィス・ルソー」シリーズは、陶器におけるジャポニズムの顕著な例です。



【図7】

フェリックス・ブラックモン(クレイユ・モントロー製作所製造)
鳥に虫文台皿
1866-1875年



【図5】*

セーヴル ティーセット「クラウデッド・ブルー」 1876年



【図6】

セーヴル/アガトン・レオナル(原型デザイン)
踊り子像(テーブルセンターピース「スカーフダンス」のNo.3)
1901年(1899-1900年デザイン)



【図8】*

エミール・ガレ 人物文コーヒーセット 1880-1884年

イギリス

UNITED KINGDOM

産業革命が始まった地であるイギリスには、他のヨーロッパの窯とは異なる特色や背景がいくつかあります。

まず、窯はすべて民間の窯です。これはイギリスの王侯貴族たちの心が植民地経営に向いていて、製陶業への関心が薄かったことが主な理由です。王室御用達の栄誉を受けた窯のなかには「ロイヤル」の名を冠するものもありますが、王立というわけではありません。

つぎに磁器に代わる素材と技術の革新です。イギリスでは硬質磁器の製造に必要な原料、カオリンが採れないため、動物の骨灰を配合したボーン・チャイナなどの新素材が生み出されました。さらに銅版転写など大量生産を可能にする技法も考案されました。

最後に、イギリスといえば紅茶です。18世紀中頃以降、上流階級から中流階級にも喫茶文化が浸透し始め、技術革新により安価な新素材の茶器が普及していきました。植民地インドで茶葉の生産に成功したことも、喫茶習慣の広がりにも寄与しました。

本展では、ロイヤル・ウースター、ウエッジウッド、ミントン、ロイヤル・ドルトン、ムーアクロフト、スージー・クーパーの茶器を中心とした品々を紹介します。



【図9】*
ロイヤル・ウースター
花文ティーポット 1873年



【図10】
ミントン／クリストファー・ドレッサー（デザイン）
福寿字文茶壺 1870年頃



【図11】*
ロイヤル・ドルトン 狐文コーヒーセット 1950年代



【図12】
スージー・クーパー
花文コーヒーセット「ドレスデン・スプレイ」 1935年頃

オランダ

NETHERLANDS

17世紀の一大貿易大国オランダは、西洋陶磁史においても重要な存在です。オランダ東インド会社が運んだ中国・日本の磁器は、ヨーロッパの王侯貴族たちに磁器愛好趣味を広め、オランダで生産された白地に青の染付磁器風のファイアンス（錫釉色絵陶器）は、磁器の代替品として人気を博しました。磁器やブルー＆ホワイトのカラーリングは今や洋食器のスタンダードですが、その背景には陶磁器を戦略的に利用したオランダの存在があったのです。

時を移して、本展で紹介するのはアール・ヌーヴォーが花開いた19世紀末創業のローゼンブルフとブランチェです。これらの窯はいずれも20世紀はじめには閉鎖されてしまいましたが、短い活動期間に他に類を見ない個性的なデザインを世に送り出しました。とりわけローゼンブルフのうねるような独特のフォルムに軽やかな色彩で花々を描いたエッグ・シェル（卵の殻のように薄い磁器）の器は、1900年のパリ万国博覧会で評判を呼び、オランダのアール・ヌーヴォー陶磁を代表する存在となりました。



【図15】

ローゼンブルフ／サムエル・シェリンク（装飾デザイン）
リラに蜘蛛文カップ&ソーサー
1909-1910年



【図13】

ローゼンブルフ／ユリアン・コック（原型デザイン）、
ヤコブス・ヴィレム・ファン・ロッサム（装飾デザイン）
蘭文ティーポット
1900年頃



【図14】*

ローゼンブルフ／サムエル・シェリンク（装飾デザイン）
三色スマイレ文カップ&ソーサー
1909-1910年



【図16】

ブランチェ
向日葵文花器
1898年

デンマーク

DENMARK

19世紀末、アール・ヌーヴォー期の磁器において、デザイン面でも技術面でも革新的な動きを見せたのが、デンマークのロイヤル・コペンハーゲンやビング・オー・グレンダールでした。デンマークでの磁器製造は1773年に始まります。1779年には王立磁器製作所が創立されましたが、1868年に民営化され、現在のロイヤル・コペンハーゲンへと至ります。一方、ビング・オー・グレンダールは1853年に創設された民間の窯です。

絵画的な表現を得意としたロイヤル・コペンハーゲンと、彫塑的な造形に特色があるビング・オー・グレンダールには、いずれも飛躍のきっかけを作ったデザイナーがいます。奇しくも同年の1885年に芸術監督に就任した、ロイヤル・コペンハーゲンのアーノルド・クローと、ビング・オー・グレンダールのピエトロ・クローンです。彼らのもので生み出された淡いパステルカラーの釉下彩や、宝石のように輝く結晶釉の作品は、アール・ヌーヴォーにおける磁器の典型となりました。



【図17】*

ロイヤル・コペンハーゲン／アーノルド・クロー（原型デザイン）
花文カップ&ソーサー
1902-1922年(1899年原型デザイン)



【図18】

ロイヤル・コペンハーゲン／アーノルド・クロー（原型デザイン）、
ソーン・ベア（装飾デザイン）
北極熊付トレイ 1925年



【図19】

ビング・オー・グレンダール／ピエトロ・クローン(原型デザイン)
鷺文食器揃
1915年(1888年原型デザイン)

フィンランド

FINLAND

フィンランドの陶磁器として多くの人が思い浮かべるのは、シンプルで機能的なフォルムのアラビアの食器ではないでしょうか。

アラビアは、1873年にスウェーデンのロールストランドが、ロシア市場への供給強化のためヘルシンキ郊外のアラビア地区に設けた工場がはじまりです。1916年にフィンランド資本となり独立して以降、今日まで続くフィンランドを代表する窯です。

開窯から25年ほどロールストランドのデザインを流用した製品を主力としていましたが、1900年頃には国内の「ナショナル・ロマンティシズム（フィンランド独自の民族文化を見出そうとする動き）」を背景に、オリジナルのデザインを生み出すようになります。

1932年に美術部門が設立され、ビルゲル・カイピアイネンなどの陶芸作家が輩出されていきます。1946年にプロダクト・デザイン部門長となったカイ・フランクによる、従来の洋食器の形や用途に縛られない機能的で温かみのあるデザインは、北欧の機能主義的なデザインを代表するものの一つです。



【図20】

アラビア／ヨハン・ジェイコブ・アーレンベルクまたは
トール・ウーベルク(デザイン)
幾何学文水差「フェンニア」
1902-1923年



【図21】

アラビア／ラファエル・ブロムシュテッド(デザイン)
幾何学文ソースボウル「ヒルダー」
1912-1930年



【図22】*

アラビア／カイ・フランク(デザイン)
食器揃「キルタ」
1953-1975年(1948年デザイン)



【図23】

アラビア／ビルゲル・カイピアイネン(デザイン)
三色スマレと果実文食器揃「バラティッシ」
1972-1974年(1969年デザイン)

旧ソヴィエト連邦

SOVIET UNION

ロシアでは1744年にサンクト・ペテルブルクで帝室磁器製作所が開かれ、宮廷のために贅を尽くした品々を製造していました。しかし1917年の十月革命で帝政が崩壊すると工場が国有化され、支配階級のステイタス・シンボルであった磁器が民衆の手に渡りました。その後、1922年にはソヴィエト連邦が成立します。

ソヴィエト時代の陶磁器は政権のプロパガンダの一翼を担う一方、ロシア・アヴァンギャルドの芸術家たちが造形理念を形にするためのツールにもなりました。ロシア・アヴァンギャルドとは、20世紀前半のロシア革命前後に興った前衛的芸術運動の総称で、範囲は美術から音楽、建築、文学など多岐にわたります。とりわけ、カジミール・マレーヴィチらのシュプレマティズムの提唱者たちは、実用を度外視した実験的な陶磁器をデザインしました。自然の形の再現ではなく、円や四角など幾何学的形態で純粋な感情を表す、というシュプレマティズムの理論を、立体の磁器に応用したのです。



【図24】
カジミール・セヴェリノヴィチ・マレーヴィチ
ティーセット
1962年再製作(オリジナル:1923年)



【図25】*
ニコライ・ミハイロヴィチ・スエーティン
(国立磁器製作所製造)
幾何学文ティーポット
1923年



【図26】
イリーナ・イリイニチナ・ロジェストヴェンスカヤ
(ドゥッジョーボ磁器製作所製造)
幾何学文カップ&ソーサー
1930年代初頭

特別展 岐阜県現代陶芸美術館コレクション

ティーカップ・メリーゴーラウンド

ヨーロッパ陶磁にみるモダンデザイン100年

展覧会広報用画像について

展覧会の広報用貸出画像データ／読者プレゼント招待券をご希望される方は、下記ご確認の上お申し込みください。

- * 画像は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。展覧会終了後の利用、また二次利用はお断りしております。
- * 画像掲載にあたっては、【記載クレジット】を必ずご記載ください。
- * Webサイトで掲載の場合は、必ず画像にコピーガードをかけてください。
- * 読者プレゼントの際には作品画像を掲載し、展覧会会期中にご紹介ください。またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴社、貴編集部にてお願いいたします。
- * ご掲載紙・誌等は広報事務局までご送付ください。

〔貸出画像リスト〕 作品掲載にあたっては下記の情報をご明記ください

図1	マイセン 花飾ティーセット	19世紀後半	岐阜県現代陶芸美術館
図3	KPMベルリン 植物文カップ&ソーサー	20世紀初頭	岐阜県現代陶芸美術館
図5	セーヴル ティーセット「クラウド・ブルー」	1876年	岐阜県現代陶芸美術館
図8	エミール・ガレ 人物文コーヒーセット	1880-1884年	岐阜県現代陶芸美術館
図9	ロイヤル・ウースター 花文ティーポット	1873年	岐阜県現代陶芸美術館
図11	ロイヤル・ドルトン 狐文コーヒーセット	1950年代	岐阜県現代陶芸美術館
図14	ローゼンブルフ／サムエル・シェリンク(装飾デザイン) 三色スマイレ文カップ&ソーサー	1909-1910年	岐阜県現代陶芸美術館
図17	ロイヤル・コペンハーゲン／アーノルド・クロー(原型デザイン) 花文カップ&ソーサー	1902-1922年 (1899年原型デザイン)	岐阜県現代陶芸美術館
図22	アラビア／カイ・フランク(デザイン) 食器揃「キルタ」	1953-1975年 (1948年デザイン)	岐阜県現代陶芸美術館
図25	ニコライ・ミハイロヴィチ・スエーティン(国立磁器製作所製造) 幾何学文ティーポット	1923年	岐阜県現代陶芸美術館
読者招待券	5組10枚まで受付	※申し込み受付は	2026年4月18日まで

お申し込み方法

当館ホームページ「プレスの方へ」ページの申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。

入力いただいたアドレスに広報事務局よりメールをお送りします。



三井記念美術館ホームページ「プレスの方へ」ページ
<https://www.mitsui-museum.jp/press/press.html>

プレス関係の方からの
お問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当:大原、松井、富樫 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp